

令和3年12月23日

医薬情報活用実例 フォーマュラリー編

一般社団法人 日本病院薬剤師会
 医薬情報委員会

国内の医学、歯学、薬学およびその周辺分野の論文情報の検索サービス「医中誌 Web」（2021.8.29 時点）において、検索キーワードを「フォーマュラリー/フォーマュラリー/formulary」、検索条件を「原著論文」、「最新の5年分に限定」として抽出された論文16報のうち、フォーマュラリーを主とした論文であること、本文の閲覧が可能であること、査読ありであることを複数の医薬情報委員で確認し、表の通り整理しました。

表1. フォーマュラリー報告事例まとめ

論文番号	分類	様式		対象薬剤	作成過程 根拠	承認過程	安全性	適正使用		経済性	備考
		フローチャート	優先順位表				副作用件数減	処方量・患者数	不適切投与減	薬剤費	
1	院内	○	○	慢性便秘症治療薬	○ システマティックレビュー	○	○	○	-	○	
2	院内		○	ビスホスホネート製剤	○ 学会ガイドライン	○	-	○	-	-	専門・専門外の比較
3	院内	○	○	認知症治療薬、 抗精神病薬	○ -	○	○	○	-	○	認知機能評価、 在院日数
4	院内	○		抗インフルエンザ薬	○ 学会提言	○	-	○	○	○	
5	院内		○	ARB、PPI&P-CAB、 湿布剤、保湿剤	○ -	○	-	○	-	○	持参薬切り替え フロー
6	院内		○	尿酸生成抑制薬	○ システマティック レビュー	○	-	-	-	-	詳細な作成過程
7	院内		○	レニン-アンジオテンシン系 阻害薬	○ レビュー	-	-	-	-	○	持参薬変更群と 非変更群の血圧変動比較 による適正使用評価

○：記載がある項目、 -：記載がない項目

表 2 対象論文

1	タイトル 著者 雑誌	慢性便秘症治療薬の適正使用を目指した院内フォーミュラリ導入の効果の検証 吉田章悟, 小暮俊明, 酒井美理, 町田裕実子, 村松温子, 岩月美紅, 小田高司, 加藤豊範 日本病院薬剤師会雑誌. 57 巻 4 号 Page413-418, 2021
2	タイトル 著者 雑誌	ビスホスホネート製剤を対象とした院内フォーミュラリーの導入と診療科別の処方選択との関係 三浦良祐, 菊池大輔, 渡辺善照 日本病院薬剤師会雑誌. 57 巻 2 号 Page220-225, 2021
3	タイトル 著者 雑誌	回復期病院における認知症・せん妄・不眠対応チームへの薬剤師参画の重要性 酒井美理, 小暮俊明, 町田裕実子, 吉田章悟, 村松温子, 岩月美紅, 小田高司, 加藤豊範 日本病院薬剤師会雑誌. 56 巻 12 号 Page1469-1474, 2020
4	タイトル 著者 雑誌	抗インフルエンザ薬の適正使用指針(フォーミュラリ)導入のアウトカム評価 片田佳希, 米澤淳, 杉本充弘, 木全紘典, 吉田優子, 糸原光太郎, 中川俊作, 北田徳昭, 今井哲司, 池見泰明, 深津祥央, 中川貴之, 松村康史, 長尾美紀, 松原和夫 日本病院薬剤師会雑誌. 56 巻 10 号 Page1155-1160, 2020
5	タイトル 著者 雑誌	入院処方における院内フォーミュラリーの導入と医薬品購入費削減効果 横山匠太, 安原昌宏, 内海敦志, 高橋恭平, 大山展弘, 西倉教子, 原田靖子, 西原昌幸 日本病院薬剤師会雑誌. 55 巻 10 号 Page1195-1201, 2019
6	タイトル 著者 雑誌	系統的論文調査による回復期患者における尿酸生成抑制薬に関するフォーミュラリの構築 金井紀仁, 鈴木義人 アプライド・セラピューティクス. 10 巻 Page26-46, 2018
7	タイトル 著者 雑誌	Formulary System を基に処方提案することによる薬剤費抑制効果 レニン-アンジオテンシン系阻害薬を対象として 金井 紀仁, 松田 沙樹子, 大野 智裕, 鈴木 義人 日本病院薬剤師会雑誌 53 巻 4 号 Page443-447, 2017

医薬情報活用実例 フォーミュラリー編の抽出条件

検索エンジン (データロック) : 医中誌 (2021.8.29)

検索式 : フォーミュラリー、フォーミュラリ、formulary

検索条件 : 原著論文、最新の 5 年分

検索式 : (((((処方集/TH or フォーミュラリー/AL) or (病院処方集/TH or フォーミュラリー/AL)) or ((処方集/TH or フォーミュラリ/AL) or (病院処方集/TH or フォーミュラリ/AL)) or (処方集/TH or formulary/AL)) and (DT=2016:2021)) and (PT=原著論文))

論文抽出 : 上記検索式よりピアレビュー論文*に限定した。

*2 名以上で査読の上、採否が決定された論文。学術研究の正確さを図るうえで必要とされる。